

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます、宮崎県立看護大学の校庭の桜は満開を迎え、まばゆいばかりの緑でおおわれる季節に向かうこの日に、多数のご来賓の方々のご臨席のもと、学部入学生 103 名、別科助産専攻 14 名、大学院博士前期課程 3 名、博士後期課程 3 名の計 123 名の皆様をお迎えし、入学式を行うことができますことを、教職員一同、大変うれしく思い感謝しております。また、これまで皆さんをはぐくみ支えてこられたご家族、保護者の皆様もお喜びのことと思ひ、心からお祝いを申し上げます。

皆様が入学された本学は、平成 9 年 4 月に九州で初めての県立の看護大学として開学し、平成 13 年度に大学院博士前期課程、平成 17 年度に博士後期課程が開設されております。また、平成 29 年度には別科助産専攻を開設し、この 3 月までに総勢 2,048 名の卒業生が羽ばたき、各地で日々の看護を支え、また看護学の発展と看護教育を担う中核的人材として活躍しております。

先日 1 日に、新元号が発表されましたが、皆さんは、これから始まる希望に満ちた「令和」の世に、本学に入学され、私どもと共に、大学の歴史に新たな色合いを加える者として歩み出すこととなります。

今、皆さんは、将来、看護師、保健師、助産師になることを目指し、また、看護教育や研究に携わることを目的として入学され、期待に胸を膨らませていることでしょう。

一方で、看護学とは何を学ぶのだろうか、また、どのように研究課題に取り組むべきか、友達はできるだろうか、新しい環境に慣れ無事に大学生活を送れるだろうかなど、不安に思うことも多いのではないかと思います。

しかし、心配は無用です。本日あるいは明日から、オリエンテーションやガイダンスが始まりますが、それらは「つながりづくり」を基調とした企画になっています。きっと皆さんの不安を払拭してくれるはずです。

看護は、「人と人との出会い」と「つながり」なくしては始まりません。看護の場に出会う方は、病気の方や妊産婦の方、地域で健康に暮らし続けたいと思っている方々、人生最後の看取りの時を迎えている方など様々です。年齢や、あるいは、これからは国籍も様々になるかもしれません。

看護はこれらの方々と、本音で語れる関係を築かなくては、良い看護は提供できません。医学等の知識や技術の前に「私たちの方から何と声を掛けるか」が、とても大切なこととなります。例えば、「どうされましたか」や「いかがですか」などの一言ですが、この声掛けは、聞いたことに答えてもらおうとするのではなく、相手の方が話したいことを自由に組み立てるよう相手に任せる言葉掛けであり、看護においての初めての出会いの言葉としてとても重要な一言です。

また、看護学は実践の学であり、一つの学問ですから科学的であることはもちろんですが、今お話したように、実践の看護は人と人として作り上げていくもので、一回一回の繋がりは、それぞれ異なり、科学だけでは成り立ち得ないものです。

「看護は科学でありアートである」これは、私が看護を学び始めた時に、恩師から学んだ言葉であり、今も私の「座右の銘」とし大切にしている言葉です。

この言葉を、私からもみなさんに贈りたいと思います。「看護は科学でありアート」であり、一人ひとりにあったより良い看護を探求し、創造していくものであります。

これから皆さんが看護を学び深めていく過程で、それぞれの個性を活かしながら新しく醸し出す色合いを、私どもとともに、本学の歴史に塗っていきましょう。

さて、今、また社会は大きな変革の時を迎えております。情報化の進展や様々な分野でのAIの実用化による技術革新は、世界の経済のあり様にも大きな影響を及ぼしています。

日本においても、少子高齢化が急速に進み、格差の拡大が言われるなど、今まで経験したことのない、先を見通せない時代がやってこようとしています。

しかし、どのような時代になろうと、人の命があり生活がある限り、そこに看護は存在します。ただ、看護をより善きものとしていくためには、お話してきましたように、直接、個々の患者さんや住民の方にかかわり個別性の高い看護を行うとともに、その看護が提供される場所や環境を看護職が改善することも必要となるでしょう。また、看護が提供される仕組みや法律・制度についても時代に応じて変えていかなければなりません。

本学において看護を学ぶことで、個別的な看護の実践者はもちろんのこと、看護職のリーダーとなり、看護の制度や施策を作る行政などの場で活躍する看護職も必要であることを、さらに、そのための根拠を明らかにする研究を行うことも必要であることを、十分に学んでください。そして、皆さんには、これらを目指して欲しいと思います。

本学において、多くの仲間や教職員、関係者とのつながりを豊かにして、専門職としての看護の発展に尽くす者となることを期待して、私の式辞といたします。

平成31年4月3日

公立大学法人宮崎県立看護大学

学長 平野かよ子